

都市農村交流施設「貴和の宿」の設備改修に伴う交流活動の展開

—山口県下関市菊川町「貴和の里につどう会」による地域活性化活動の事例研究 その6—

中山間地 都市農村交流事業 廃校
 空き家 空間構成 使われ方

正会員 ○利光 由江*
 正会員 山本 幸子**
 正会員 中園 真人***
 正会員 渡邊 弘崇*

1. はじめに

都市農村交流に取り組む住民組織「貴和の里につどう会」(以下「つどう会」と称す)では、年間を通して田植えや稲刈り等の都市農村交流イベントが継続的に開催されており、廃校を整備した「貴和の館」、公会堂、空き家を住民主体で改修した「貴和の宿」の三つを拠点として活動が行われている。本報では、都市農村交流施設「貴和の宿」の設備改修に伴う交流活動拠点の展開の分析と「貴和の宿」の空間機能評価を行い、改修計画・設計の妥当性と農家住宅の都市農村交流施設としての再生可能性に関し考察を行う。

2. 貴和の宿の改修と五右衛門風呂の増設

貴和の宿は住民ボランティア主体の改修により 2009 年 3 月に竣工され、その後 2010 年 9 月には二期工事と五右衛門風呂増設が行われた。

1) 貴和の宿の改修

大人数の食事、集会に対応できる空間、また、今後子どもを対象とした田舎宿泊体験事業を想定し、改修が行われた。図1に貴和の宿平面図及び内装・設備改修内容を示す。山口大学による実測調査の結果、床下の腐食が著しいことが確認され、床下腐食部材の交換を中心に改修計画が立てられた。平面計画としては西側を一面ワンフロアの板間に改修し、床下は基礎・土台・束・東石・大引き・根太の大半が交換され、ジャッキアップにより柱が計3本交換され、差鴨居は主に南西部分が計7本交換された。柱頭・柱脚接合部は羽子板ボルト又は万能ボルトで固定している。インテリア改修として南側に竹の縁側が増設され、囲炉裏が移設された。設備改修としては土間台所に中古のシンクが設置され、釜戸が修繕された。便所は既存の汲み取り式のまま使用することとし、浴室は解体された。

図2に二期工事前と二期工事後の土間台所の平面図を示すが、二期工事では中古のシンクを二台と、シンク下の収納棚、井戸安全柵を設置した。屋外にプロパンガス、釜戸、流しを設置した。また、トイレの簡易水洗化を行った。工事に伴い、洗濯機・冷蔵庫の位置、台の大きさや配置等が変更されている。

2) 五右衛門風呂の増設

図3に五右衛門風呂の平面図を示す。「小学生からファミリーまでを対象とした農家住宅の宿泊体験を利用目的とし、最大30名を想定した規模と設備を備える」ことを

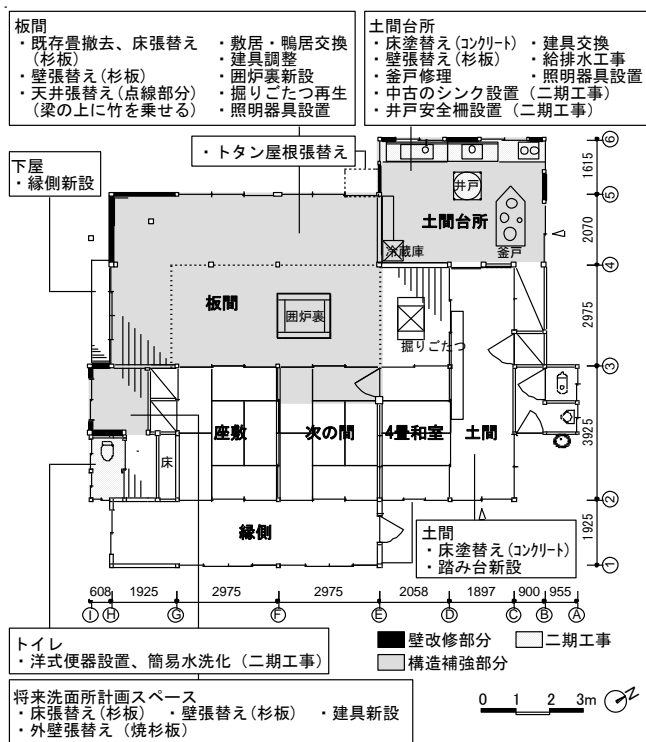


図1 貴和の宿平面図及び内装・設備改修内容

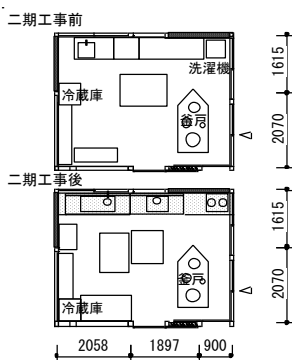


図2 台所平面図

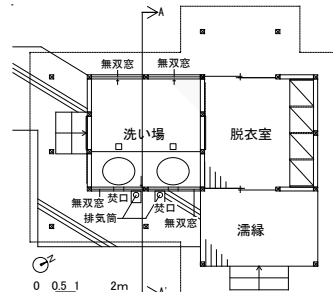


図3 五右衛門風呂平面図



a. 台所二期工事前 b. 台所二期工事後 c. 五右衛門風呂

設計条件とし、母屋東面の空き地を敷地に増築された。

同時入浴人員 5 名、毎時利用人員 15 名と設定し、洗い場・脱衣室面積を各々約 8 m²とし、風呂釜を 2 基設置する計画とした。本工事は市内の大工と左官・屋根職人に発注することとし、人手が必要な工事に地域住民が参加することとした。

3. 貴和の里につどう会による都市農村交流イベント

1) 都市農村交流イベントの概要

「つどう会」では年間を通して田植えや稲刈り等の都市農村交流イベントが継続的に開催されている。図4に交流イベントの開催場所を示すが、公会堂と廃校を整備したB貴和の館とC貴和の宿の三つがイベントの主な拠点施設である。①～⑧が野外での活動場所を示している。参加者用の駐車場は貴和の館の西側の道路に面したスペースにとられている。また、2009年地域塾（自然観察・工作）の徒歩ルートと苧堀りの徒歩ルートを破線で示す。イベントで利用する拠点施設と、田畑等が同じ集落内にあり徒歩圏内で移動可能な距離にあることが分かる。

2) イベント内容と開催場所の関係

表1に施設整備に伴うイベント内容と開催場所の変化を示す。交流イベントは年間行事と夏休み地域塾と交流活動の三つに大別される。2007年のつどう会設立から貴

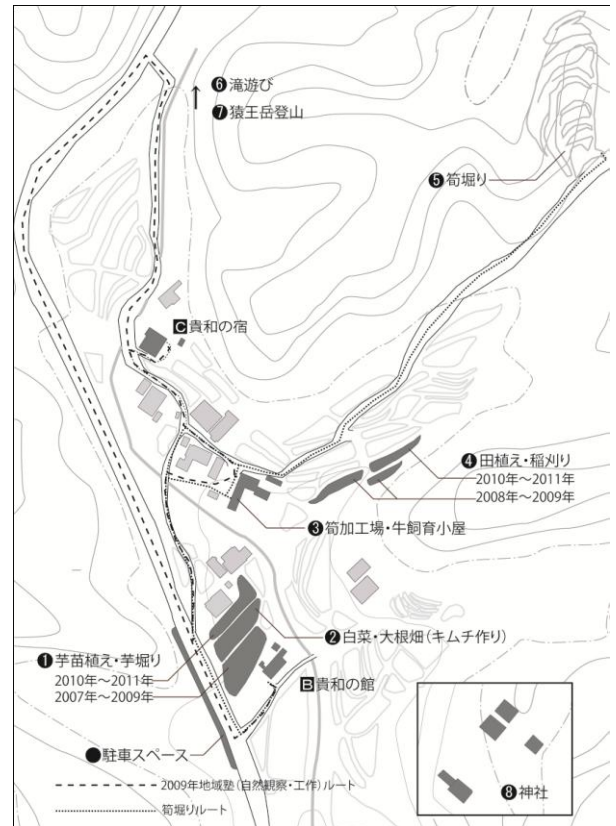


図4 都市農村交流イベントの開催場所

表1 施設整備に伴うイベント内容と開催場所の変化

年月	2007.06	2007.11	2009.03	2010.04	2010.09	2011.01
会設立	会設立		貴和の宿竣工		流し台・ 伍右衛門風呂設置	ガス設置
年間行事	館・公会堂拠点	野外活動をメインとする。スタッフは昼食を公会堂で準備し、車で館に運ぶ。 ○田植え4.27○稲刈り10.05 ○苧堀り4.27○芋掘り11.02				
	館・宿・公会堂拠点	野外活動をメインとする。スタッフは昼食を公会堂で準備し、車で館に運ぶ。 ○田植え4.19				
	館・宿拠点	野外活動をメインとする。スタッフは昼食を公会堂で準備し、車で館に運ぶ。 ○芋掘り11.01○苧堀り4.18	貴和の宿竣工後、試験的に宿の台所のみで昼食準備が行われている。 ○田植え・芋苗植え6.07○稲刈り10.04	昼食準備に公会堂台所その他、宿の台所を補助として使用。 ○田植え・芋苗植え6.06○芋掘り10.31	野外活動をメイン。スタッフは宿で昼食準備を行う。参加者は野外活動後、館で昼食をとる。 ○田植え4.24○稲刈り10.02	野外活動をメイン。スタッフは宿で昼食準備を行う。参加者は野外活動後、館で昼食をとる。 ○田植え・芋苗植え6.05○芋掘り10.7
	館拠点	館と館のプログラムを併せて実施する。館の内部、外部を一体的に活用している。 ○餅つき12.14	○餅つき12.13			○餅つき12.12
夏休み地域塾	館拠点	基本的に館で一日のプログラムを済ませる。昼食は基本的には各自持参。 ○大学生と工作7.03○工作/自然観察8.02	○大学生と工作8.19○工作/自然観察7.22 ○室内遊び7.29			
	館・公会堂拠点	基本的に館で一日のプログラムを済ませる。公会堂で昼食を準備し、館で食事をとる。 ○そうめん流し/ゲートホール8.05	○そうめん流し/ゲートホール8.05	○そうめん流し/自然観察8.07		
	館・宿拠点		館と宿を活動場所として使用している。昼食は宿で調理し、宿で食事をとる。 ○カレー作り/自然観察8.12	○カレー作り/大学生と工作8.28		カレー作り/大学生と工作8.05○大学生と工作8.19○そうめん流し(昼食場所は館)7.03
交流行事	野外活動	野外活動をメインとする。参加者は館に集合した後、野外活動を行い、再び館に集合し、解散。 ○登山/工作8.29○自然観察/流遊び8.06	○自然観察/流遊び8.26			
	宿泊なし	①公会堂で農村に関する映画を鑑賞する。 ②講演会と懇親会を宿で行う。 ③小学生の放課後教室。野外活動後、宿で昼食をとる。 ④宿で大学生のゼミを行い、宿泊する。 ⑤4泊5日で宿に宿泊する。キムチ作りを行う。 ⑥総会(公会堂)後の懇親会を宿で行い、宿泊。 ⑦宿で宿泊体験を行う。そば打ちや餅つき等を行う。	①映画鑑賞会8.23			②講演会11.05 ④放課後子供教室5.28/10.23
宿泊あり						⑥日韓交流イベント12.01-05 ⑦交流会6.19⑧宿泊体験10.22/10.29/12.10/12.17

凡例 ■: 主な活動場所 □: その他活動場所 →: 参加者動線 - ->: スタッフ動線

和の宿竣工前までは年間行事では館・公会堂拠点と館拠点の二つ、夏休み地域塾では館拠点と館・公会堂拠点と野外活動の三つの活動が見られた。その後 2009 年 3 月の貴和の宿竣工後は年間行事の館・公会堂拠点が昼食会場を館から宿へ移す事により館・宿・公会堂拠点と変化した。

夏休み地域塾では、宿で昼食準備をし、昼食を取る館・宿拠点のイベントが新たに追加された。交流事業では大学生の宿泊ゼミが宿で開かれた。

2010 年 9 月の流し台整備・五右衛門風呂増築と 2011 年 1 月のガス設置後には年間行事の館・宿・公会堂拠点が昼食準備を公会堂から宿へ移す事により、館・宿拠点へと変化した。夏休み地域塾では、館拠点と館・公会堂拠点が昼食準備を公会堂から宿へと移す事により、館・宿拠点へと変化した。交流行事では宿の二次改修後は講演会・放課後子供教室・日韓交流イベント（宿泊）・交流会（宿泊）・宿泊体験等様々な種類の行事が追加された。このように貴和の宿竣工と二期工事を境にイベント内容が変化している事がわかる。

4. 都市農村交流イベントの活動分析事例

ここでは貴和の宿竣工後と二期工事後の空間の使われ方を比較していく。

1) 貴和の宿竣工後の使われ方の分析事例

図 5 に貴和の宿竣工後の夏休み地域塾「カレー作り」の回の空間の使われ方を示す。参加者とスタッフは板張りのフロアに長机を配置し、昼食をとる。6 畳間には小さい子供連れの家族が食事を取っている。室内を板張りのワンフロアに改修したことにより、大人数の食事が可能な空間を有していることが分かる。

2) 貴和の宿竣工後と二期工事後の空間の使われ方比較

図 6 に 2010 年と 2011 年の田植え・芋苗植えの貴和の宿の使われ方の比較図を示す。昼食準備の様子を調理・おにぎり作り・配膳の三つに分けて比較していく。

まず調理場面を比較すると、2010 年度では屋外に大釜を設置し汁物の用意をし、釜戸で炒め物とご飯の調理と湯を沸かしている。流し横の長机の上は物置になっており、作業スペースが少ない事がわかる。また、釜などの大きな物は屋外でホースを使い洗っている。2011 年度では、ガス台で汁物を用意し、釜戸でご飯と柏餅の準備と湯を沸かしている。また、板間の掘りごたつの周りでは炊飯器によるご飯の準備を行っている。

次におにぎり作りを比較する。2010 年度では台所内の台に 6 人が集まりおにぎりを作っている。作り終わると板間に出した長机でパック詰めをしている。2011 年度では板間の北側に長机を 4 つ配置し流れ作業で準備を行っている。南側の机では柏餅の準備をする等、おにぎり作りと並行して他の作業が行われている。また、台所の西側のシンクでは食器等の洗いをし、東側のシンクではそうめんを水でしめる等調理の補助として使用している。

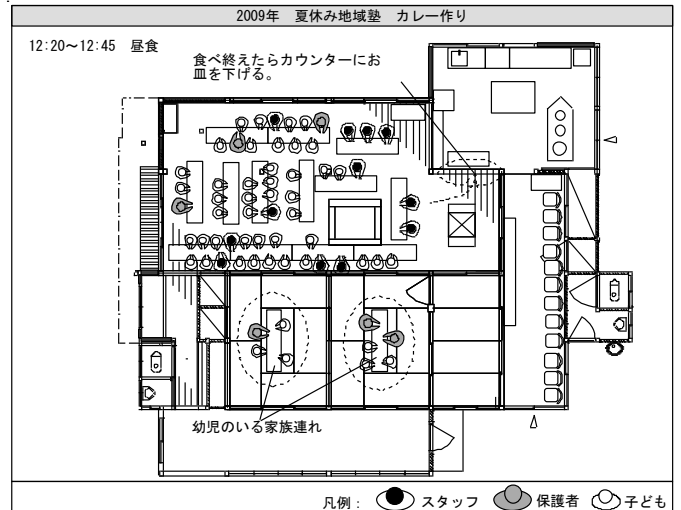


図 5 夏休み地域塾「カレー作り」使われ方

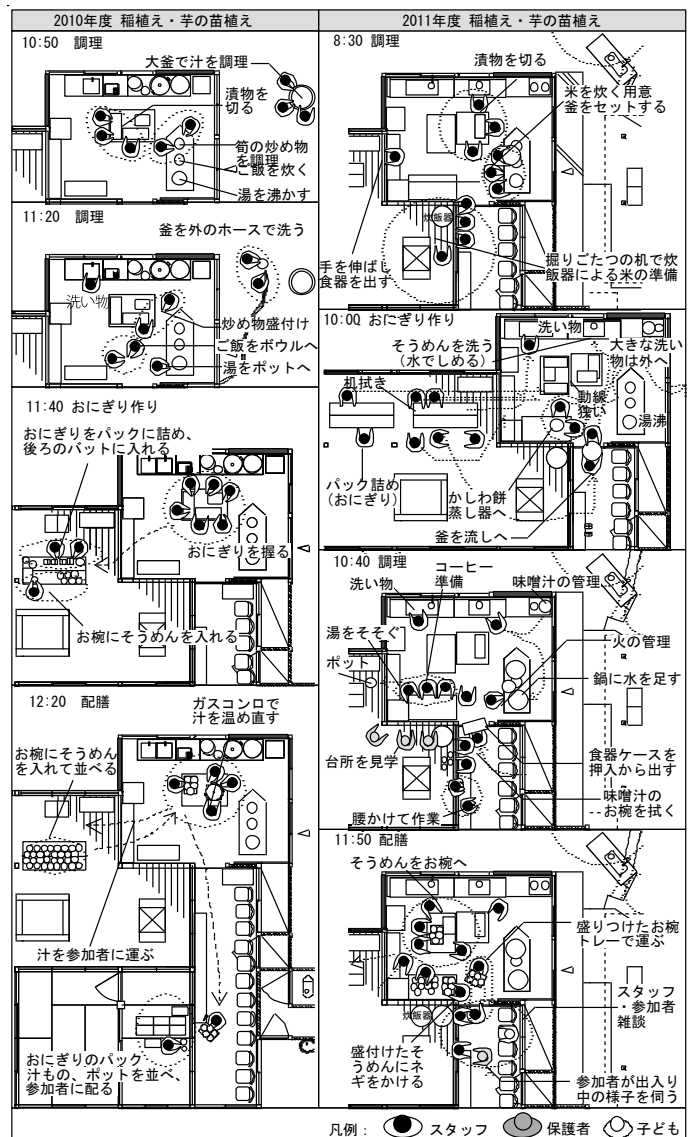


図 6 田植え・芋苗植え時の貴和の宿使われ方比較図

名前	日韓交流イベント		
使用場所	貴和の館・公会堂・野外		
日程	2011. 12. 01~05		
内容	韓国の方を招いてキムチ作りを行う。畑でとった白菜を宿で漬ける。夜は宿で食事会を行う。		
名前	宿泊体験		
使用場所	貴和の館・公会堂・野外		
日程	2011. 10. 22~23		
内容	そば畑の見学、そば打ち体験などを行う。夜は囲炉裏で魚を焼くなどして食べる。五右衛門風呂を参加者で沸かし、入る。		

図7 宿泊体験概要

最後に配膳を比較する。2010年度では板間の北側に長机を配置し、その上にお椀にそうめんを入れて準備している。その後台所へ運び、大釜で調理した汁を卓上ガスコンロで温めなおして注ぎ、南側の4畳間に運んでいる。4畳間では汁物の他、おにぎりのパック、ポットや紙コップ等を並べて参加者に配っている。対して2011年度では食器を押し入れから出し、板間の掘りごたつ付近に配置し、板間と土間の間の踏み台に座り、お椀を布巾で拭いている。その後台所の南側の机と中央の机を使い、お椀にそうめんを入れて準備し、ガス台で直接温めた汁を注ぎ、台所西側から板間のテーブルへ運んでいる。板間を使わず汁物の準備を済ませている。

3) 交流イベント事例

図7に二期改修後の2010年と2011年に行われた宿泊体験の概要を示す。五右衛門風呂増設・二次改修後は農家体験宿泊施設として機能するようになり、2010年12月には韓国の方を招いて交流会を行い、2011年10月から12月までには一般客を対象とした宿泊体験を計4回開催した。2011年10月22日～23日の宿泊体験では参加者はそば畑の見学とそば打ち体験を行い、夜はそば料理と囲炉裏で魚を焼く等して食事を取った。また、五右衛門風呂を沸かして入る体験も行った。

5. まとめ

1) 母屋改修後の空間機能の評価

「貴和の宿」は田舎宿泊体験及びイベント時の大人数の交流拠点としての活用を目的に改修設計が行われた。平面計画は、(1)北面居室は大人数利用に対応できるように、囲炉裏を設け23畳の板間に間取り変更する、(2)南面居室は宿泊時の就寝室に充てる、(3)浴室を撤去し土間台所面積を拡張する計画とし改修された。二期工事では「つどう会」のスタッフの方へのヒアリング調査から改修工事を行った。

北面を板張りのワンフロアに改修したことにより、大

人数の食事が可能な空間を有す。しかし、台所の機能が乏しく面積も狭いため、大人数の食事を調理することが困難である。

2) 二期工事後の台所の空間機能の評価

シンクを二台設置したことにより、一方で洗い物をし、もう一方でそうめんを水でしめるなど作業の効率化が図られている。また、プロパンガスが設置され、ガスコンロとガス炊飯器が使えるようになったことで一度に複数の料理の調理が可能となっている。しかし、台所中央と南側の作業台を以前より広いものと交換したため、台所内の移動スペースが狭くなっている。また、ガス炊飯器が掘りごたつの付近に設置されているため、掘りごたつ周辺が作業場となっている。このため、土間から板間への動線がさえぎられている場面も見られた。

3) 考察

以上から、「貴和の宿」改修により、大人数での食事が可能となり、二期工事により台所の設備が整備され、大人数の食事準備が可能となり、都市農村交流施設としての空間機能が補完されたと言える。ただし台所面積が狭いため、板張りでの作業等で補っている。

今後の課題としては、貴和の宿の二次改修・五右衛門風呂増設後に開始された宿泊体験の追加調査を実施し、宿泊施設としての機能の検証を行う必要がある。

謝辞

本研究は「貴和の里につどう会」の皆さまからの多大なるご支援・ご協力をいただきました。末筆ながら厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 山本幸子、利光由江、渡邊弘崇、中園真人：序論及び巒井集落の概要—山口県下関市菊川町「貴和の里につどう会」による地域活性化活動の事例研究 その1—、日本建築学会中国支部研究報告集、第34巻、pp.573-576、2011.3
- 1) 山本幸子、中園真人、利光由江、渡邊弘崇：中山間集落における空き家を活用した都市農村交流施設の整備プロセス—地域住民組織「貴和の里につどう会」による改修・増築工事の事例研究—

* 山口大学工学部感性デザイン工学科 学部生

** 山口大学大学院理工学研究科 助教・博士(工学)

*** 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博

* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.

** Assistant Professors, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.

*** Professor, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.